

台湾に光学用表面保護フィルムの東アジア生産拠点を構える藤森工業

台湾賽諾世股份有限公司(以下、台湾賽諾世)は、樹脂包装材大手メーカーである藤森工業株式会社の台湾子会社として2013年に設立された。コーティング(Coating)やラミネーティング(Laminating)のコア技術を有し、フラットディスプレイ偏光板用保護フィルムや剥離フィルムの分野では世界トップの市場シェアを誇る。台湾賽諾世は、今年11月に南部科学工業園区高雄園区に工場を設立し、着実に東アジア向けの光学フィルム生産体制を整え始めている。今回は、同社の原澤総経理を訪ね、台湾事業の状況、工場設立の目的、今後の事業展望等についてお話を伺った。



台湾賽諾世股份有限公司 原澤斉総経理

一 貴社事業の概要及び台湾進出の経緯について

当社は、ライフサイエンス事業、情報電子事業、建築・土木資材事業の3つの主要事業から構成されています。海外に5つの拠点(タイ、香港、中国、アメリカ、台湾)を持ち、中でも台湾拠点は最も新しい拠点であると共に情報電子事業の生産拠点としては、海外初進出となります。

2013年7月に現地法人の台湾賽諾世を設立し、南部科学工業園区高雄園区内にて工場設立を進めてまいりました。そして2015年10月末に無事完工し、光学用表面保護フィルムの生産を開始しました。私自身は、1992年に情報電子事業の生産拠点である沼田事業所の立ち上げや、2007年の同事業の生産量増加に伴う昭和事業所の立ち上げなど多くの工場設立のプロジェクトに携わっており、その関係で台湾拠点の立ち上げにも参加することになりました。

台湾賽諾世の設立にあたり、以前から当社との親交が深い新光合成繊維から議決権比率10%の出資を受けて合弁の形態を取っています。新光合成繊維からライセンス取得のプロセスや工場建設に関する様々な支援をいただきました。

一 台湾における事業内容について

台湾賽諾世は、当社の情報電子事業の中でも光学用表面保護フィルム及び剥離フィルムの生産販売を行っています。特に、当社の強みであり世界的にも高いマーケットシェアを獲得している偏光板向け保護フィルムに注力しています。また、拠点設立当初から研究開発部門を設けており、製品加工技術の研究開発や、地場のお客様との共同開発を行う機能を有しています。現時点では主に日本で生産している製品のカスタマイズなどを中心に行っていますが、今後は日本で生産していない新製品の開発にも活用していく予定です。台湾賽諾世内に設けた分析センターには、最新の分析設備を導入しており、自社製品の課題解決や競合製品の分析、お客様の立場での評価・解析などに活用されています。

一 新工場設立の目的について

台湾事業については、拠点を設立する前から輸出ベースで長年対応してきましたが、お客様のニーズに対して更に迅速な対応を行うために生産拠点を構える決断をしました。台湾の中でも高雄を選んだ理由は、保税区の優

日本企業から見た台湾

遇を受けられるサイエンスパークに広い土地が確保できた点、材料の輸入や製品輸出のための港が近い点などが挙げられますが、最終的には高雄の陳菊市長をはじめとする高雄市政府の積極的なサポートをいただいた点が一番大きかったと考えています。10月21日の工場竣工式にもお忙しいスケジュールを縫って市長自らご参列いただきました。

工場設立の目的は主に3つあります。1つ目は、前述の通り台湾のお客様の強い要望です。日本でフィルムを生産し台湾に輸出する場合は、オーダーをいただいてから納入まで約3週間かかります。その点、台湾に工場を設けることで、リードタイムを日単位へ短縮することができます。近年電子製品のプロダクトライフサイクルが急速に短くなっているため、大手顧客の近くに拠点を設けてお客様の製品開発のプロセスに寄り添って迅速に開発・生産を行うことが大切だと考えています。

2つめは、コスト面です。台湾生産に切り替えることで、主に物流コストなど台湾で生産する場合も直接材料の多くは日本から輸入しており、材料の輸送費は引き続きかかりますが、最終製品の輸送費に比べると有利です。台湾賽諾世はサイエンスパーク内に立地しています。そのため、工場全体が保税扱いになっており、同じく保税区内に拠点を持つお客様へ商品を納入する際にはすべて保税扱いとなります。

3点目は、中国・東南アジアへの販売拡大です。台湾には数多くの大手のお客様がいますが、それらお客様の生産拠点は既に海外に広がっています。それら海外工場向けに当社の製品を納入するために台湾に拠点を設けることは大変意義があります。

今後の事業展望について

台湾賽諾世は設立から間もないため、当面は現在生産している光学向け保護フィルムの生産に注力し、台湾のお客様のニーズに対して迅速に対応する体制を確立することを目指していきます。中長期的には、情報電子事業向けの別製品の生産にも取り組み、プロダクトライン

アップの拡大を目指していきます。具体的には、同じ保護フィルムの耐熱工程用微粘着フィルムや表面保護用ウレタン微粘着フィルムなどの生産並びに精密塗加工のEMSビジネスも視野に展開して参ります。今後の生産拡大を見越して、工場拡張にも対応できるだけの土地を確保しており、現時点では第一期のみ完成しておりますが、第二期、第三期と生産量やラインアップ拡大に対応して順次工場拡張を進めていく予定です。また、それに伴い人材の確保も積極的に進めていきます。当社の生産ラインは自動化が進んでいるため、1ライン当たりに必要な作業員は多くありませんが、生産拡大を見込んで130名程の体制にしていく予定です。

現在は台湾国内向けの販売が殆どですが、今後は中国及び東南アジアなどへの拡大も積極的に目指していきたいと考えています。また、台湾発の新製品開発やニーズを迅速に日本の開発拠点にフィードバックする体制を確立していく予定です。このような取り組みを通して、光学用表面保護フィルムの分野では引き続き世界トップシェアを守り、剥離フィルムは多種多様なニーズへ対応し、海外市場開拓していく体制を台湾発で確立していきたいと考えています。

ありがとうございました

台湾賽諾世(股)有限公司の基本データ

会社名	台湾賽諾世股份有限公司
設立	2013年
董事長	塩見公彦
資本金	4億6,990万NTD
従業員	101名(内、日本人9人)
事業内容	情報電子事業向けフィルムの開発・製造・販売

注)2015年11月時点のデータによる
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理